

報道関係者 各位

2017年10月26日 日本科学未来館

SCWS2017関連企画

特別展示「ビューティフル・ライス ～1000年おいしく食べられますように」

展示詳細決定、11月11日(土)に取材会を実施

にっぽんかがくみらいかん
 日本科学未来館(略称:未来館、館長:毛利衛)は、2017年11月11日(土)～2018年1月8日(月・祝)に、特別展示「ビューティフル・ライス～1000年おいしく食べられますように」を開催いたします。

本展は、日本科学未来館を会場にアジアで初めて開催する世界科学館サミット2017(SCWS2017:11月15～17日)にあわせて企画したものです。アジア各地の農村で、数千年にわたって続いてきた伝統的な米作りを科学の視点で読み解きながら、これからの1000年も「おいしく食べる」ためのアイデアを探ります。

本展の特色は、アジアの農村で受け継がれてきた米作りの背後に、周囲の自然とつながる見事な物質循環システムが成立していたことを浮き彫りにした点です。

中心となる展示は、伝統的な農村の様子を表現した大型模型です。「山から田んぼに水を引きこむ」「レンゲを育てて土に混ぜる」など、米作りをめぐる人々の営みを立体的なイラストで紹介。同時に、一つ一つの営みの背後にある物質の流れを、科学の目で解き明かしていきます。田の守り神などアジア地域の民俗資料のほか、各地の多様な食卓の風景なども見どころです。そしてこの循環型の米作りをヒントに、未来に続く「おいしい」のために科学技術をどのように使うべきかを考えていきます。

公開初日の11月11日(土)には、本展の監修者、佐藤洋一郎氏(人間文化研究機構 理事)も出席し、取材会を実施します。また同日、佐藤氏による、おにぎりを食べながらお米の未来を考える特別トークイベントを開催します。ぜひ貴媒体にてご掲載、ご取材いただきますようお願い申し上げます。

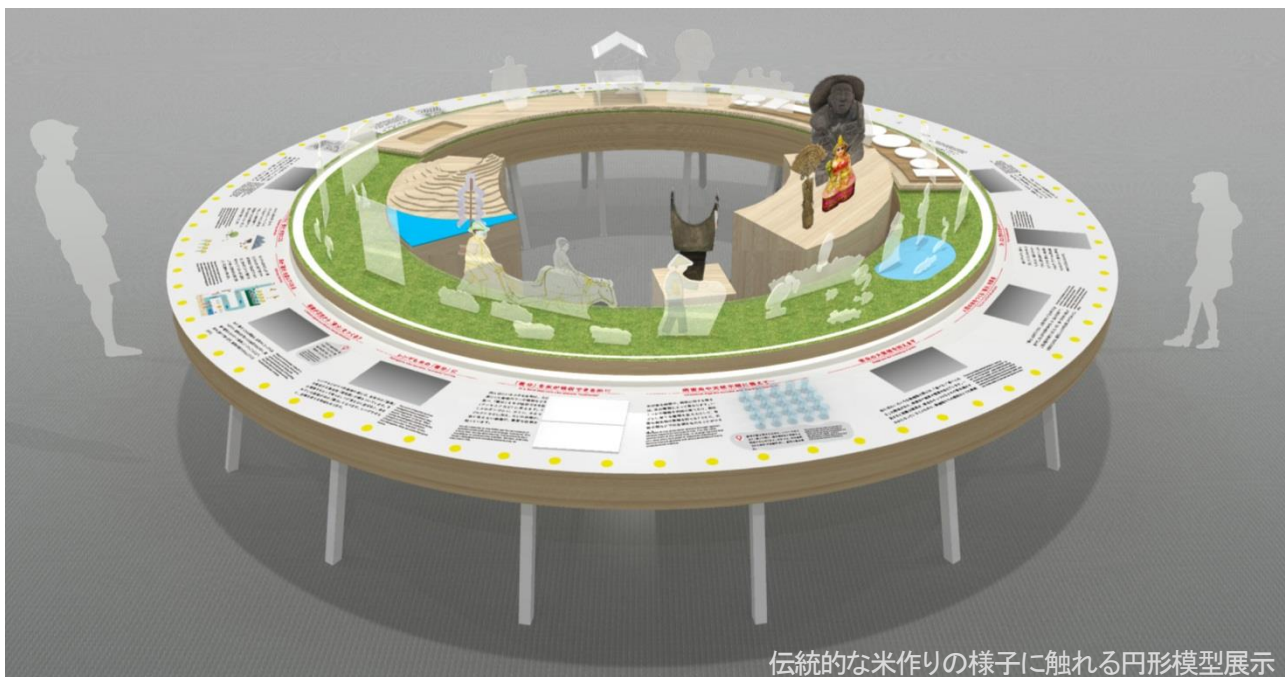

■展示概要■

名 称	SCWS2017関連企画・特別展示「ビューティフル・ライス～1000年おいしく食べられますように」
開催日程	2017年11月11日(土)～2018年1月8日(月・祝)
開館時間	午前10時～午後5時(入館券の購入は閉館時間の30分前まで)
開催場所	日本科学未来館 1階 コミュニケーションロビー
休 館 日	毎週火曜日(火曜日が祝日の場合は開館)、年末年始(12/28～1/1)、11月15日(水)
入 場 料	無料(ただし、常設展・企画展への入場には別途料金が必要です)
主 催	日本科学未来館
監 修	佐藤洋一郎氏(人間文化研究機構 理事)
協 力	アジア太平洋地域科学館協会(ASPAC)加盟館、国際稲研究所(IRRI)、国立民族学博物館

一般からのお問い合わせ先	本件に関するお問い合わせ先
日本科学未来館 〒135-0064 東京都江東区青海2-3-6 TEL:03-3570-9151 FAX:03-3570-9150 URL http://www.miraikan.jst.go.jp	日本科学未来館 展示企画開発課 広報普及担当 Email: press@miraikan.jst.go.jp TEL:03-3570-9192 FAX:03-3570-9150

■展示構成

明日も、1000年先も、おいしいお米を食べ続けるために、いま私たちにできることは何でしょう？ 展示のスタートは、アジアの伝統的な農村を表現した大型展示。ここを起点に、未来の米作りを考える手がかりを4つのパートに分けて紹介し、持続可能な食糧生産のあり方を探っていきます。



伝統的な米作りの様子に触れる円形模型展示

1. 「1000年おいしい」の秘密

アジアの農村での伝統的な米作りの様子を、直径4.5メートルの円形模型で表現します。農作業だけでなく料理や祭りなど、稲作に関係の深い生活や文化を、映像や民俗資料を交えた豊富なイラストで展示。同時に、その背後にある物質循環を「もらう」「つくる」「たべる」「かえす」という4つのプロセスで整理し、科学の視点でひも解きます。何千年も続く田んぼの物質循環を1000年おいしく食べ続けるためのヒントとしてとらえ直します。

2. 「1000年おいしい」の危機

近代の農業は、化学肥料の活用や大規模化などにより高い生産性を実現した反面、化石燃料への強い依存や、田んぼの生物多様性の低下など、課題も生まれています。稲作をはじめとした 21 世紀の農業に共通した現状を、パネル展示で紹介します。

3. 次の「1000年おいしい」のために

次世代へつなぐ「持続可能な食糧生産」の方向性を探ります。「地球」と「人類」が共生しながら「食べる」という営みを続けていくためには何が必要でしょうか。汚泥の堆肥化や高度なITを活かしたスマート農業など、ブレイクスルーとなり得るアイデアを、パネル展示で紹介します。

4. あなたはどのお米を選びますか？

「1000年おいしい」を実現する方法を、参加者一人ひとりが考えるコーナー。「火星で作った米」、「1000年前の方法で作った米」など、環境負荷や収穫量などの点で一長一短ある架空のお米を選ぶ体験を通して、ベストの解を見つける難しさを体感します。



豊富なイラストで伝統的な米作りを紹介



アジアの伝統的な農村の風景を多数大画面に表示

■取材会について

開催日時 2017年11月11日(土) 10:30~11:30 (10:00より1階職員用通用口にて受付)

開催場所 日本科学未来館 1階 コミュニケーションロビー

出席者 佐藤洋一郎氏(人間文化研究機構 理事)

※本リリース4ページ目の「申込票」からお申し込みください。

■関連イベント「アジアに学ぶ1000年おいしい」

特別展示「ビューティフル・ライス」監修者であり、アジア各地の農村で長年フィールドワークに取り組んできた佐藤洋一郎氏(人間文化研究機構理事)とともに、「私たちがこれから持続的に食べていく」ために必要なことを、アジアの稲作文化をヒントに科学の視点から考えます。佐藤氏による「ビューティフル・ライス」の展示解説 と合わせてお楽しみください。

レクチャーの後には参加者におにぎりを食べていただきながら、未来に向け「どんなお米を食べたいか」を考えるミニトークも実施。アジアに根ざした稲作の知恵や人間の営みに学び、これからも 変わらず食べ続けるためのヒントを探ります。

日 時 2017年11月11日(土)
 時間 11:30~12:45
 場 所 1階 コミュニケーションロビー
 参加費 無料
 参加方法 事前申込要。Web サイトよりお申し込みください。
 定 員 50名(先着順)

※おにぎりは参加者一人につき一個をご提供します。

■監修者・イベント講師：佐藤洋一郎（人間文化研究機構理事）

1952年和歌山県生まれ、農学博士。国立遺伝学研究所助手、静岡大学農学部助教授、総合地球環境学研究所教授などを経て、2015年より現職。植物遺伝学をはじめとするいろいろな手法を組み合わせ、「イネの文化がどう日本に伝わってきたか」を研究。約30年にわたり東南アジアや中国などを訪ね、稲作や米食文化を調査してきた。農業と環境の関係史にも明るく、総合地球環境学研究所では「農業が環境を破壊するとき」という研究プロジェクトを推進。「人類にとって『食べる』とはどういうことか」にも関心をもっている。

主な著書に、『DNAが語る稲作文明』日本放送出版協会、『知ろう食べよう世界の米』岩波ジュニア新書、『稲の日本史』角川選書、『コシヒカリより美味しい米』朝日新書、『食の人類史 ユーラシアの狩猟・採集、農耕、遊牧』中公新書など。



■世界科学館サミット(SCWS)2017について

2017年11月15日(水)~17日(金)の3日間、アジアで初めて「世界科学館サミット 2017(SCWS2017)」を開催いたします。世界科学館サミット(SCWS)は3年に一度開かれる国際会議で、世界の科学館を牽引する数多くのリーダーをはじめ、教育関係者、政策関係者、企業関係者らが一同に会します。

日本科学未来館が主催するSCWS2017は、「世界をつなぐー持続可能な未来へ向かって」というテーマで開催されます。科学技術への市民の関与について、また急速に変化する社会のなかで科学館が果たすべき新たな役割について議論します。

SCWS2017では、英国食品基準庁の初代長官としてBSE問題に取り組んだジョン・クレブス卿やノーベル生理学・医学賞受賞者の山中伸弥氏など、食料、生命科学、地球環境、建築などの幅広い分野から世界を代表する識者にご講演いただきます。また、サミットの開催に先立ち6月には、グローバル・サステナビリティへの市民参加を推進するための科学館行動指針「東京プロトコル」が世界の科学館代表者たちにより合意されました。国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けたプラットフォームとして科学館が活動していくことを宣言し、本サミットにおいて具体的な議論が行われます。

開催日程 2017年11月15日(水)~17日(金)
 開催場所 日本科学未来館
 特設サイト <https://scws2017.org/jp>

SCWS2017 関連企画・特別展示「ビューティフル・ライス～1000年おいしく食べられますように」
取材会のご案内・取材申込票

FAX 送付先 : 03-3570-9150

■SCWS2017 関連企画・特別展示「ビューティフル・ライス～1000年おいしく食べられますように」取材会

開催日時: 2017年11月11日(土) 10:30～11:30(10:00より1階職員用通用口にて受付)

開催場所: 日本科学未来館 1階

※メールによるお申込の場合は、本用紙を添付、または下記項目をメール本文に記入の上、press@miraikan.jst.go.jp までお送りください。

※取材会は開館中に開催いたします。一般のお客様を撮影される場合には、ご本人もしくは保護者の方の了承を得ていただきますようお願いいたします。

※参加を希望される場合は、お手数をおかけいたしますが、11月10日(金)17:00までに、本取材申込票に必要事項をご記入のうえ、FAXもしくはメールにてご返信ください。

ご参加内容	取材会(11月11日(土)10:30～11:30) ※トークイベント(同日 11:30～12:45)のご取材 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
御社名	
媒体名	
部署名	
お名前	様 全 名
撮影機材	<input type="checkbox"/> ムービー(ENG 台・ハンディ 台) <input type="checkbox"/> スチール(台)
ご連絡先	MAIL: TEL: FAX: 携帯電話: ※差し支えないようでしたら当日連絡用の携帯電話番号をご記入ください。
通信欄	

■場 所 : 日本科学未来館(東京都江東区青海 2-3-6)

<アクセス>

・新交通ゆりかもめ「船の科学館駅」下車、徒歩約5分

・「テレコムセンター駅」下車、徒歩約4分

・東京臨海高速鉄道りんかい線「東京テレポート駅」下車、徒歩約15分

お手数をお掛けいたしますが、11月10日(金)17:00までに、必要事項をご記入のうえ、FAXもしくはメールにてご返信下さい。

